



独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization
MEDICAL URESHINO CENTER

うれしの

2017.5

第51号

【発行所】
嬉野医療センター
佐賀県嬉野市嬉野町
大字下宿丙2436番地



「菜の花：白石町」

基本理念

「ひとり一人を大切に」

医療は患者さんの為のものであり、安心で安全な医療の実践が必要である。ひとり一人を大切にするとは、この医療の実践に重要である。この「ひとり一人」は、患者さんのみならず当院に関係する全ての人たちを指し、ひとり一人が大切にされることによって、ひとり一人が周囲を大切にする。このようにして、当院は人命を尊び人格を敬って医療に携わっていくものである。

運営方針

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 迅速で質の高い医療 2 安全で安心な医療 3 地域医療構想に基づく医療 4 患者さんの権利を重視した医療 | <ol style="list-style-type: none"> 5 適切な病院機能の更なる継続 6 経営基盤の確保と新病院建設 7 将来を担う医療人の育成 8 臨床研究と治験による医療への貢献 |
|---|---|

患者さんの権利

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 4 プライバシーが守られる権利 | <ol style="list-style-type: none"> 5 常に人としての尊厳を守られる権利 6 医療上の苦情を申し立てる権利 7 継続して一貫した医療を受ける権利 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |
|---|--|



緩和ケア研修会について

緩和ケア委員会 香月 亮

1月28日29日に附属看護学校において平成28年度嬉野医療センター緩和ケア研修会を開催しました。今日はその研修会について説明したいと思います。

平成19年、がん対策推進基本計画で「すべてのがん診療に携わる医師が緩和ケアの基本的な知識を研修によって習得すること」を目標として掲げられ、佐賀県内でも平成21年から緩和ケア研修会が始まりました。県内のがん診療連携拠点病院である佐賀大学病院・県立病院・唐津赤十字病院と当院は年に1回以上研修会を開催する義務があり、勤務するがん診療に携わる医師に対して研修会を受講させる必要もあります。研修会を修了した医師の割合は全国平均でも県内でも約50%にとどまっていますが、当院では河部院長・岡副院長の協力もあり、この3年間95%以上を保つことができています。

研修会は基本的な内容ではありますが、概論から各論、身体症状から精神症状、それぞれの診断から治療に至るまでの全体講義と、少人数に分かれての症例検討やコミュニケーションを学ぶロールプレイと多岐にわたっており、土曜日曜の2日間で780分かけて行われました。

講師は、県内の拠点病院で緩和ケアの指導者として活躍されている7名の先生方にお手伝いいただき、当院の岡副院長、綱田内科部長、平川放射線科医長と香月が担当しました。

がん性疼痛看護認定看護師の山峯副師長と緩和ケア認定看護師の小森副師長、麻酔科医と庶務班長・係長さんたちにもスタッフとして協力いただきました。

これまでは、研修会を修了した医師の割合を増やすことを目標としていましたが、医師だけで緩和ケアができるものではありません。患者のケアを行う看護師や薬剤師・管理栄養士・理学療法士・MSWなどの他職種が連携することが必要です。内容も医師のための研修会から医療従事者に対する研修会に徐々に変わりつつあります。

皆さんも緩和ケア研修会に参加してみませんか？



緩和ケア研修会の様子



緩和ケア委員会について

緩和ケア認定看護師 小森康代

当院では、がん診療連携拠点病院として、「緩和ケアの実践の中心的役割として、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を有する患者、家族を対象に、診断されたときから多職種からなるチームメンバーによる、迅速かつ個別性のある緩和ケアを提供する」ことを目的とし、平成21年より、月1回の緩和ケア委員会を開催しています。構成メンバーは、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、事務、等総勢25名で緩和ケアチームを組み活動を行っています。

緩和ケアは、病気になったときから、いつでも受けることができます。治療を受けながら、早期に緩和ケアを受けることで、からだや心のつらさなどを緩和し、自分らしさを取り戻しながら生活されている患者様も多くおられます。

緩和ケア委員会では、患者様の苦痛な症状緩和について意見交換を行い、より良いケアの提供方法話し合います。また主治医、病棟看護師と相談しながら、患者様やご家族の希望にそった形で、症状緩和や療養の場についても一緒に考えていきます。

「がん患者と家族の会（お茶々サロン）」も、緩和ケア委員会主催で、年6～7回開催しています。がんに関する情報提供や、患者様やご家族が安心して思いを分かち合い、気持ちを和らげるきっかけ作りの場となることを目標に活動中です。

今年度より、わたくし小森が緩和ケア専従看護師となりました。今までの歩みを重んじつつ、これからも顔の見える関係性を大切に、患者様やご家族スタッフへ、充実した緩和ケアの提供を目指し活動を行っていきます。どうぞ宜しくお願い致します。



保険薬局薬剤師を招いての 合同症例検討会の開催について

医薬分業（医師・歯科医師が患者の診断・治療をおこなった後、医療機関から発行された処方箋にもとづいて独立した薬局の薬剤師が調剤や薬歴管理、服薬指導を行い、それぞれの専門性を発揮して医療の質の向上を図ろうとするものです。）に対する厚生労働省の基本的な考え方では、「薬局の薬剤師が専門性を発揮して、ICTも活用し、患者の服薬情報の一元的・継続的な把握と薬学的管理・指導を実施。これにより、多剤・重複投薬の防止や残薬解消なども可能となり、患者の薬物療法の安全性・有効性が向上するほか、医療費の適正化にもつながる。具体的には、医師の処方内容をチェックし、必要に応じ処方医に対して疑義照会や処方提案を実施。調剤後も患者の状態を把握し、処方医へのフィードバックや残薬管理・服薬指導を行う。医薬品等の相談や健康相談に対応し、医療機関に受診勧奨する他、地域の関係機関と連携。すべての薬局を2025年迄に「かかりつけ薬局」へ移行する」旨が記載されています。

しかしながら薬業連携（病院と院外の薬局の薬剤師が情報を共有し、患者さんが入院してから、退院してからでも充実した医療を受けることができるように連携することです。つまり、患者さんの情報をお互

い交換しあって共有しようということです。)の必要性は感じているものの、病院内の薬剤師と院外の保険薬局の薬剤師が、入院してくる患者さんの在宅での薬学的管理指導(処方された薬剤の投与量、投与方法、投与速度、相互作用、重複投薬、配合変化、配合禁忌等に関する確認並びに患者の状態を適宜確認することによる効果、副作用等に関する状況把握を含む。)の情報を得て病院での治療が終わり、患者さんが退院してからも充実した医療を受けることができるように、患者さんの情報をお互いが共有し連携するために実際に活動している施設は少ないと思えます。病院薬剤師は院内での必要性に特化した活動をし、保険薬局薬剤師は保険点数が算定可能な活動を実施した結果、薬剤師同士の連携が上手くいっているとは言い難い状態になっているのではないのでしょうか。

そこで、平成27年10月から外来患者さんの処方薬適正使用を推進するため、血液検査結果の一部を保険薬局の処方監査に必要な情報として、院外処方箋に記載することにしました。それにより、かかりつけの保険薬局薬剤師が患者さんの検査値を確認することが可能となり、薬剤の用量や相互作用だけでなく、検査値に基づいた身体状態を把握した上で処方監査ができるようになりました。患者さんお一人お一人の肝機能や腎機能に応じた投与量の適正化や副作用の早期発見など、薬物療法の安全性と有効性の向上に寄与できると思います。



また、本年2月より、薬剤部において、保険薬局薬剤師を招いての合同症例検討会を開催しています。保険薬局と病院との連携を強化することを目的とした症例検討会で、お互いの連携を意識しながら薬物療法への薬剤師の介入のポイントや患者さんの退院後に起こりうる問題点、注意が必要な点等を検討しています。

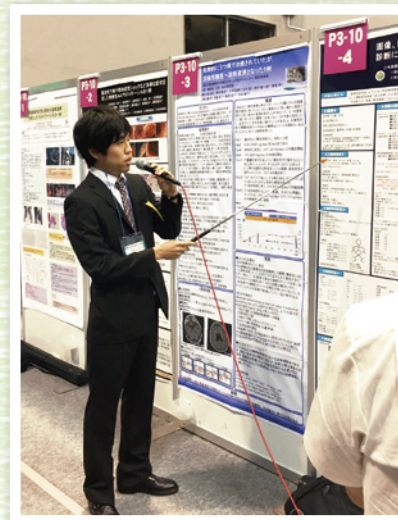
現在は、病院薬剤師からの症例報告を中心とした検討会を実施していますが、今後は保険薬局薬剤師からの報告も交えることで、病院薬剤師が経験できない様な情報等も共有していきたいと考えています。合同症例検討会で検討する症例には患者さんの個人情報を含みませんので、個別の症例についての検討ではありません。しかし、こういった合同症例検討会を実施することで薬剤師同士のコミュニケーションを深め、より患者さんの為になる薬物療法に寄与することを目指していきたいと思っています。

臨床研修を終了して

～嬉野医療センターでの研修を終えて～

福岡大学 循環器内科 今泉朝樹

2015年の4月から2年間、嬉野医療センターで初期臨床研修医としてお世話になりました。見知らぬ嬉野の土地で、社会人として働きだすことに不安を抱えておりましたが、指導医の先生方や看護師さん、その他多くのスタッフの方々に暖かく見守って頂き、有意義で楽しい2年間を過ごすことが出来ました。最後には、地元よりも嬉野に帰ってきた時の方が落ち着くようになりました。研修中、医師だけではなく、医療従事者として目標とすべきスタッフの方々にたくさん出会うことができ、医師としてどのようにあるべきかを学ぶことが出来ました。こんな素敵な嬉野医療センターで研修医として学べたことを誇りに思います。



研修終了後は福岡大学循環器内科へ所属し、循環器内科医として歩いていくこととなりました。拠点が福岡となるのでなかなか嬉野に来る機会が少なくなるとは思いますが、医師として、人として成長した姿を皆様にみて頂けるよう日々精進していきたいと思っています。

最後に、研修をサポート頂いた内藤先生をはじめ、教育研修部のスタッフの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

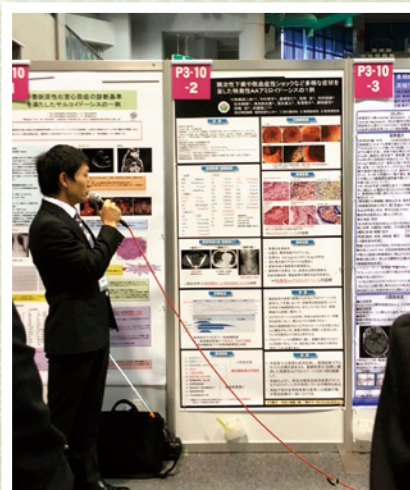
2年間の研修を振り返って

佐賀大学 総合診療部 牧尾成二郎

嬉野医療センターで医師としてのスタートを切って、思い返してみると早いようで色々なことがあった2年間であったと思います。

私は嬉野医療センターを他の連携病院での研修ができる葉隠プログラムで研修させていただきました。2年目は大半を院外で送ることとなり、感染制御部・総合診療部を佐賀大学病院で、救急科を長崎医療センターで、地域医療研修を生月病院で研修させていただきました。

嬉野に戻ってきて改めて感じたことですが、嬉野医療センターはどの病院と比べても本当に指導医、スタッフの皆様が職種の隔たりなく公私ともに温かく接してくれ、顔を合わせれば誰でも挨拶を返してくれる、本当に素晴らしい病院でした。来年度からは佐賀大学病院で総合診療医として勤務することとなりますが、また嬉野に戻ってくる頃には一回りも二回りも大きくなって帰ってきたいと思います。嬉野で学んだ日々を胸に今後も医師として歩んでいきたいと思います。改めて本当にありがとうございました。



新病院新築工事の進捗状況について

新病院工事は昨年10月に着工し、約5ヶ月が経過しました。

現在、土工事がほぼ完了し、免震装置を乗せる基礎工事を行っており、6月位に免震装置の設置を行う予定です。

今後の予定は、各階の平面図に医療機器、机等の備品、コンセント、スイッチ類を配置した総合図を配布しますので配置の確認、スイッチ等の確認をお願いします。

これから、本格的に工事が進捗し段々と新病院の姿が見えてくると思います。工事をスムーズに進めるために、各部署のとさらなる調整を行いたいと思いますので皆様のご協力をお願い致します。



祝62回生卒業!

平成 29 年 3 月 3 日嬉野医療センター附属看護学校 3 年生 (62 回生) 38 名が無事に卒業いたしました。同年 3 月 27 日には看護師国家試験の発表があり、全員合格いたしました。学生の頑張りを大いに称えるとともに、最後までご協力頂いた方々に変感謝いたします。4 月から私たちの仲間として大いに頑張ってくれることと思います。今後の活躍を期待します!



同日夜にはお世話になった方々に感謝の気持ちを込めて卒業パーティーを行いました。
参加して下さった皆様ありがとうございました。



私たち 62 回生が無事に卒業、そして国家試験に合格できたのは、実習や講義でお世話になった病院関係者の方々、先輩方、学校の先生方のお陰です。4 月からいよいよ看護師として臨床に出ることになり緊張もありますが、これまで出会った素晴らしい先輩方と一緒に働けるととても嬉しく誇らしく思います。3 年間一緒に頑張った仲間にも感謝しています。本当にありがとうございました。

62 回生 島田 茜

着任のご挨拶

看護部長 江崎章子

この度、都城医療センターより配置換えで参りました江崎です。嬉野医療センターは2年後に病院の全面移転を控えており、看護部門の責任者としての重責を感じております。患者・ご家族の皆さんが安心して移転を迎えられるよう、また職員が一丸となって移転事業に取り組んでいけるよう尽力していきたいと思っております。

しかし、その移転準備の渦中において来年度は地域包括ケアシステムの推進に向け、医療・介護報酬の同時改定が待っております。嬉野医療センターはヘリポートや救命救急センターを設置し、地域の基幹病院として高度急性期医療を提供していますが、この地域の在宅医療の基盤が整っていくまでは、当院が急性期だけの医療提供では難しい状況になるかもしれません。平成30年の診療報酬改定は気になるところですが、急性期医療体制の大きな転換期に、新病院の器だけでなく看護部門も基幹病院として地域での役割を果たすことができるよう、しっかり整えていきたいと思っております。

今年の春はなかなか暖かくならず、附属看護学校の入学式に合わせるように院内の桜が満開になりました。



施設の異動は何度経験しても緊張するものですが、病院の正面玄関に続く桜並木が、ウグイスの鳴き声が私の緊張する気持ちをほぐしてくれました。通院、入院されている患者・ご家族の皆さんも季節を感じるこの環境に、どれだけ心を和ませてらっしゃることでしょう。忙しさに忙殺されることなく、季節を感じる気持ちの柔らかさをもって、地域の方々や職員の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育主事 荒川直子

熊本医療センター附属看護学校から配置換えでまいりました荒川直子と申します。平成28年熊本地震の際は、すぐさま嬉野医療センターの医療班の皆さまが駆け付けていただき、被災している看護学校のロビーに寝泊まりしながらご支援いただきました。その中には嬉野医療センター附属看護学校の卒業生もいらっしゃいました。多くのご支援に心から感謝申し上げます。さて、私は、母校である国立嬉野病院附属看護学校を卒業後、約7年間西3病棟で勤務させていただきました。4月7日は第65期生の入学式を挙行いたしました。30年ぶりに在校生の歌う校歌を聞き、懐かしい気持ちと誇らしい気持ちで胸がいっぱいになりました。あの頃は何気に歌っていた高音の校歌でしたが、目を閉じて心で聞いてみたところ、その歌詞の一言一言が心にしみ入り、じ〜んと深く感動いたしました。教員になり、附属看護学校の勤務も4

施設目になります。看護学校の校歌は、その学校の教育理念と看護専門職としての誇りがこめられ歌い継がれています。どこの学校の校歌も素敵ですが、あらためて、嬉野の白バラの校章と校歌に長い歴史と誇りを感じました。また、大先輩である佐賀県看護協会の三根君子会長様や蒲原知愛子同窓会長様にもお会いし、あらためて卒業生として嬉野医療センター附属看護学校の発展に貢献できるよう努力しなければいけないと思いました。平成31年には新病院、平成32年には新看護学校、学生寮への移転になる予定です。卒業生として、このような大切な時期にお役にたてるかどうかと少し不安もありますが、皆さまのご指導、ご助言をいただきながら教職員と力をあわせて頑張っていこうと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

合同送別会を行いました！

管理課 庶務係長 原 秀憲

平成29年3月23日（木）に退職（定年退職）並びに異動される方々の労をねぎらい、感謝の気持ちを込めて合同送別会を行いました。今年は、退職者が定年退職者5名を含む22名、異動者が45名で、あわせて67名の方々が当院を離れられました。河部院長が定年退職の方々の紹介をされ、岡副院長の乾杯の挨拶で歓談、皆さん思い出話に花を咲かせていたようです。退職並びに異動される方々には例年各部門の代表者から挨拶をいただいていたのですが、今年は皆さんに一言ずついただくことにしました。それぞれの思いを聞くことが出来て、とてもよかったのではないのでしょうか。最後に末次事務部長より締めのお言葉をいただき、恒例となっている出席者で作ったアーチでお見送りし、送別会は無事に終了しました。

今回は司会をさせていただきましたが、挨拶回りをしていると飲み過ぎてしまい、中盤以降は進行台本のどこを読んでいるのか分からなくなってしまうピンチも多々ありましたが、お叱りの声は私に届いていませんので、何とか大丈夫だったんだろうとホッとしています。

最後に、運営にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

昭和28年の国立嬉野病院

早産保温器

新聞の切り抜きは、昭和28年11月29日、西日本新聞の記事です。当時、国立嬉野病院で1300gあまりの双子の早産児（7ヶ月児）が、無事、元気に育っていることを報道した記事です。歴史を感じさせる記事です。当時の産婦人科医は光武先生。

電熱保温器というのは、保育器のことでしょうが、その前で赤ちゃんを看ている看護師さんが、今村前教育主事のお母さんです。

（文責 河部）



部門紹介

栄養管理室

栄養管理室長 佐藤恭子

栄養管理室は、安全安心な食事の提供、継続したチーム医療への取り組み、新病院へ向けた取り組みの3つの目標を立て日々努力しています。

人員構成は、管理栄養士4名、調理師5名、非常勤事務1名、委託業者スタッフ24名の計34名です。主な業務としては、皆様ご存知のとおり患者食の提供、献立作成、入院・外来患者への栄養食事指導が挙げられます。その他、入院患者の栄養管理計画に関することや栄養サポートチーム（NST）運営に関すること、その他のチーム医療（ICUカンファレンス、心不全チームカンファレンス、嚥下ラウンド、ICTラウンド、糖尿病教室など）への参画も行っています。

特に、NST専門療法士の認定をもつ専従の管理栄養士は、介入患者へ摂取状況の確認やご本人への聞き取りを行い、栄養状態の改善に向けて食事内容を調整するなど日々奔走しています。その努力と昨年度NSTメンバーとなった先生方のご協力もありNSTラウンド件数96件→230件と2.3倍。この内NST加算件数が77件→197件と2.5倍の伸びになりました。

今後は、NST活動だけでなく他のチーム医療も継続して取り組むことで質の高い医療の提供に貢献できるよう頑張りたいと思います。



スタッフ英会話クラスを 紹介します

So many people in Japan wish they could study English. However, most people never actually do. I think that's sad. The three main reasons people never join an English class are 1) the price 2) time, and 3) shyness.



Ureshino National Hospital has done it's best to remove each of these obstacles. You have an opportunity to join an English class for an amazingly cheap price. There are multiple classes happening throughout the week so, there will be one that suits your busy schedule. And these classes are kept relaxed and fun. There is never any pressure or homework.

Improving your English will give you the ability to work with different people, make new friends and travel around the world. Come sit in on a class, I think you will like it. Learning English is not always easy.

But I promise if you come you will have fun.



私は主に木曜日の英会話クラスに参加しています。1週間の、特に週末の出来事を話題として話しています。もちろん英単語

がなかなか出てこないで、日本語混じりの会話も結構飛び交うのが実情です。話題がない時は、共通の好みであるスポーツやお酒の話で、“お茶を濁しています。”皆さんもお気軽に“I have a pen.”でも結構です、マーク先生の英会話クラスに参加してみませんか。



治験コーディネーター(看護師)です。仕事柄、英語が話せるようになればいいなと思い、英会話教室に参加しました。不真面

目なのでちっとも上達しませんが、マーク先生はいつも優しく教えてくださいます。英会話というとハードルが高そうな気もしますが、できなくても全然OKです。仕事終わりのクラブ活動のノリで楽しく参加できますので、新規加入者お待ちしております。

編集後記

新年度が始まり、1ヶ月が過ぎました。

人事異動などで、4月から生活環境が変わった方々は徐々に慣れてきたと同時に少しずつ疲れもたまってきているところではないでしょうか。

ここは嬉野です！温泉にでもつかってリフレッシュしてみتهいかがですか？

(編集員一同)